

2025年度 大学院生アンケート【国際教養学研究科】集計結果

このアンケートは、大学院の学生を対象に「意欲」「成長実感・満足度」を問うものです。

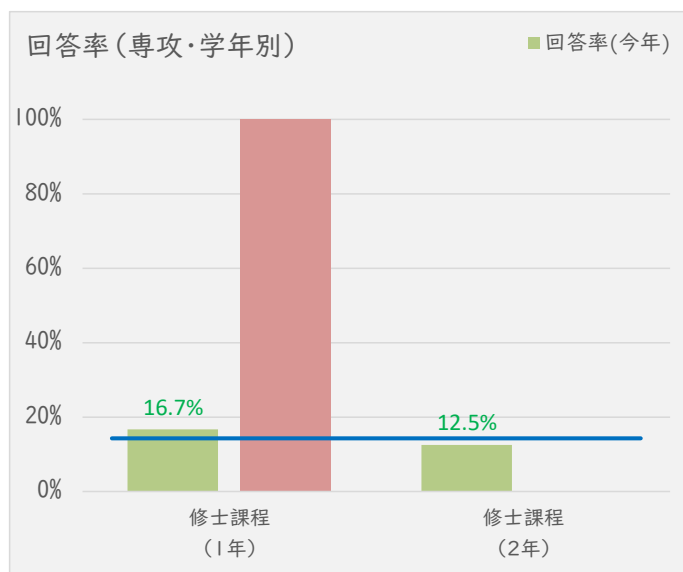
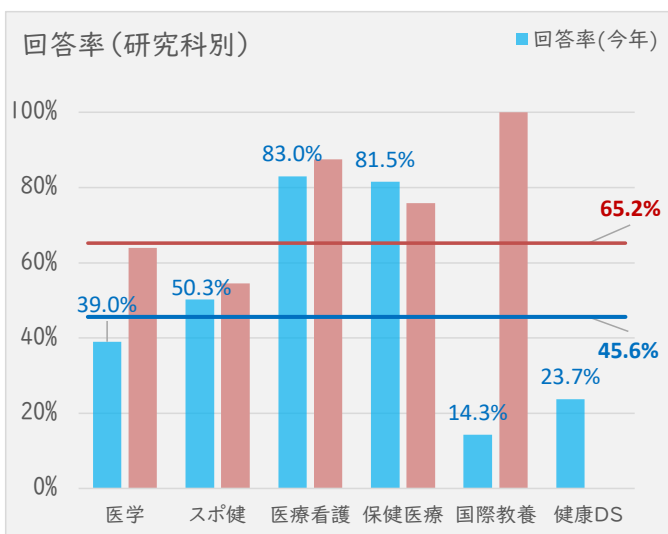
- 実施期間：2026年2月15日～2026年3月14日 ※研究科毎に実施期間は異なる。
- 対象学生：アンケート開始時点で在籍している大学院生 ※休停学、留学中の学生は除く

■回答率

大学院生アンケート	今年度						昨年度				
	回答率	(昨年比)	許容誤差*	回答者	(昨年比)	未回答者	対象者	(昨年比)	回答率	回答者	対象者
医学研究科	39.00%	(-24.99%)	3.28%	383名	(-207名)	599名	982名	(+60名)	63.99%	590名	922名
スポーツ健康科学研究科	50.26%	(-4.23%)	5.97%	95名	(-2名)	94名	189名	(+11名)	54.49%	97名	178名
医療看護学研究科	83.02%	(-4.48%)	3.63%	88名	(+4名)	18名	106名	(+10名)	87.50%	84名	96名
保健医療学研究科	81.48%	(+5.62%)	4.38%	66名	(+22名)	15名	81名	(+23名)	75.86%	44名	58名
国際教養学研究科	14.29%	(-85.71%)	55.88%	2名	(-6名)	12名	14名	(+6名)	100.00%	8名	8名
健康データサイエンス研究科	23.68%	—	24.27%	9名	—	29名	38名	—	—	—	—
★全学部合計(平均)	45.60%	(-19.61%)	2.39%	643名	(-180名)	767名	1410名	(+148名)	65.21%	823名	1262名

国際教養学研究科 (専攻・学年別)	今年度						昨年度				
	回答率	(昨年比)	許容誤差*	回答者	(昨年比)	未回答者	対象者	(昨年比)	回答率	回答者	対象者
修士課程・1年生	16.67%	(-83.33%)	82.25%	1名	(-7名)	5名	6名	(-2名)	100.00%	8名	8名
修士課程・2年生	12.50%	—	82.25%	1名	—	7名	8名	—	—	—	—
修士課程(平均)	14.29%	(-85.71%)	55.88%	2名	(-6名)	12名	14名	(+6名)	100.00%	8名	8名
★全学部合計(平均)	14.29%	(-85.71%)	55.88%	2名	(-6名)	12名	14名	(+6名)	100.00%	8名	8名

※ 許容誤差：信頼水準90%の場合、母集団からどの位の誤差が生じているかを表す指標（推奨目安：5%以内）
 ※ 表内色種：上位1項目：緑背景、平均以下：赤背景、許容誤差については5%以上が赤背景
 ※ 標記上、一部「博士前期課程=修士課程」「博士後期課程=博士課程」とする。
 ※ 国際教養学研究科修士課程：2024年度 第1期生 / 保健医療学研究科博士後期課程・健康データサイエンス研究科：2025年度 第1期生



■ アンケート結果

※グラフ中の数値は回答数

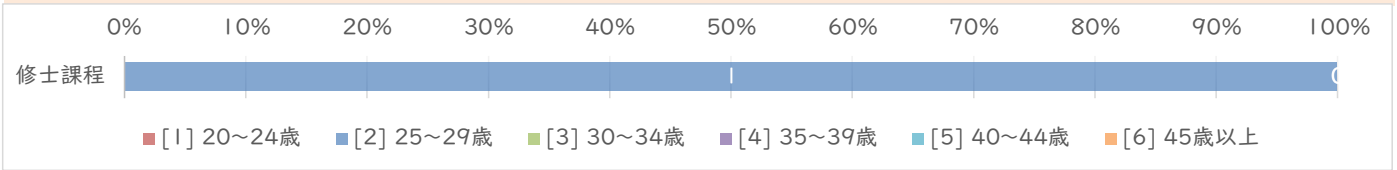
【1. 研究科共通の基本的な設問】

各課程の1年生のみ対象

N=1

Q1-01. あなたの年齢について

[全研究科共通]

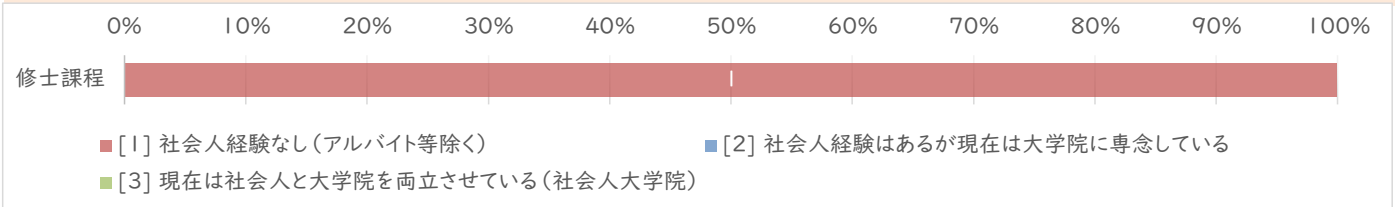


※各課程の1年生のみ対象

N=1

Q1-02. 社会人経験について

[全研究科共通]

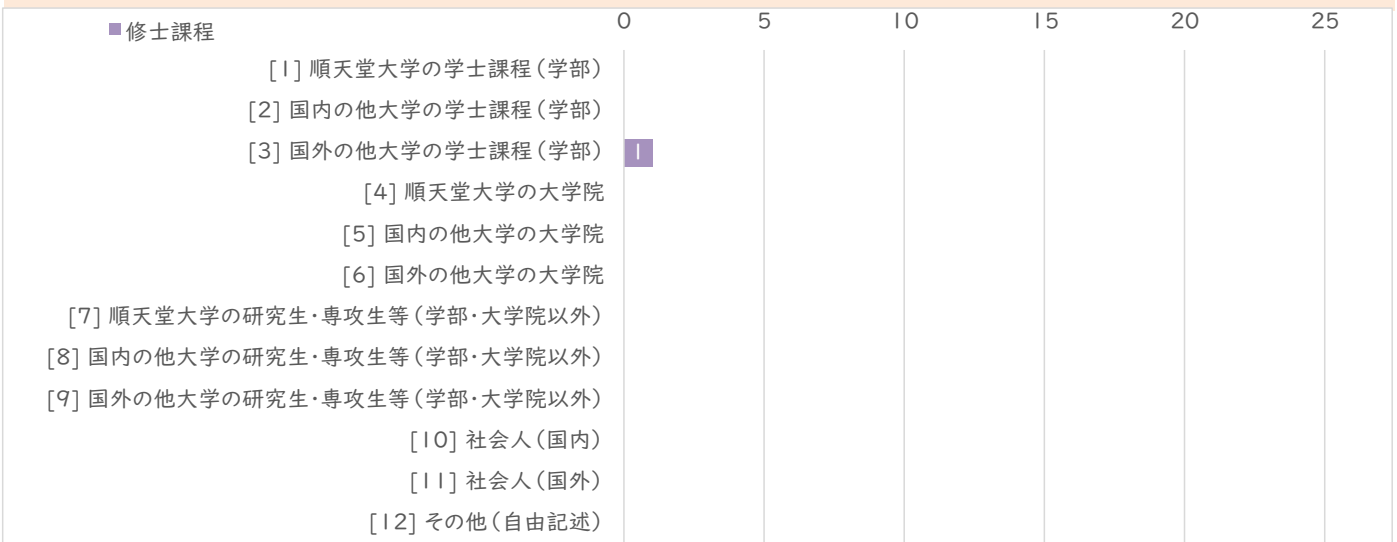


※各課程の1年生のみ対象

N=1

Q1-03. 大学院に入学する前の所属について

[全研究科共通]



※ 国際教養学研究所生 全員対象

MAの回答数合計 → N=4

Q1-04. 大学院に入学した目的はどれにあたりますか。(2つ迄選んでください)

[全研究科共通]



【1. 研究科共通の基本的な設問】

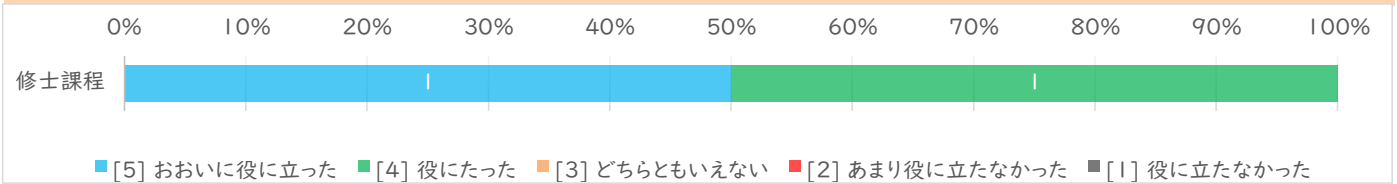
(続き)

※ 国際教養学研究科生 全員対象

N=2

Q1-05. 授業科目の履修にあたって「シラバス」の情報は役に立ちましたか。

[全研究科共通]

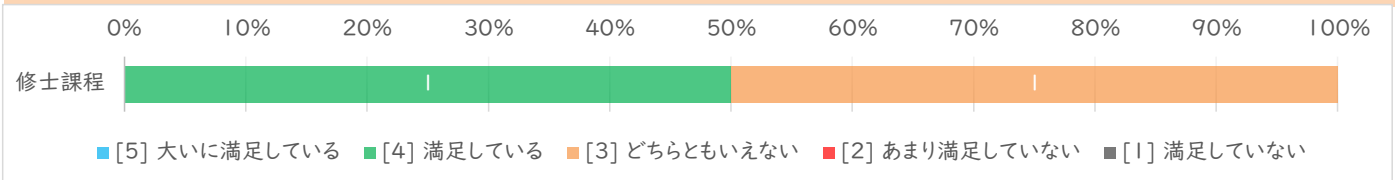


※ 国際教養学研究科生 全員対象

N=2

Q1-06. 大学・研究室の設備・機器・什器備品には満足していますか。

[全研究科共通]

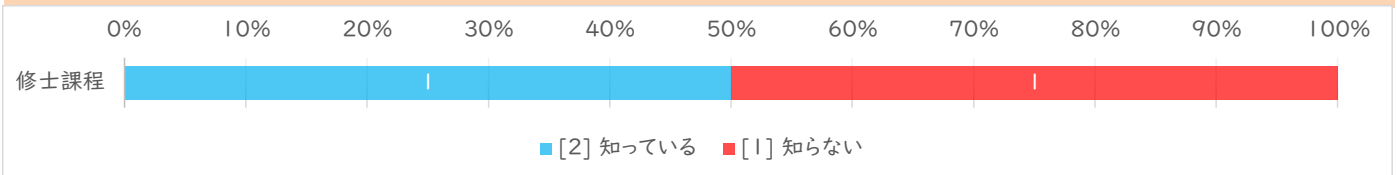


※ 国際教養学研究科生 全員対象

N=2

Q1-07. あなたは自分が所属する研究科・専攻のディプロマポリシー (DP) を知っていますか。

[全研究科共通]

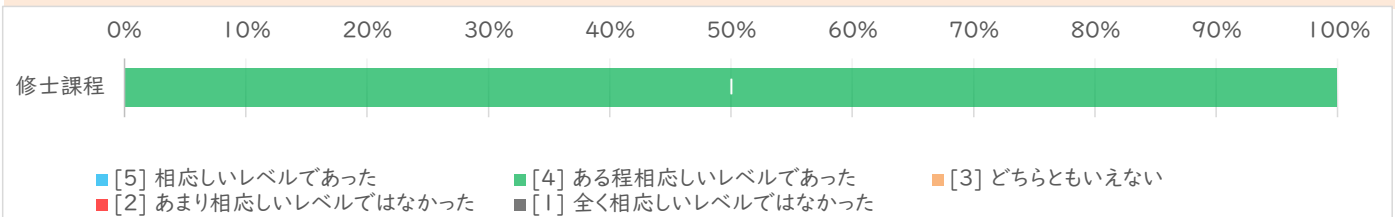


※ 最終学年の学生のみ対象

N=1

Q1-08. 本研究科での教育課程 (カリキュラム) は、学位授与方針 (DP) に相応しい内容やレベルでしたか。

[全研究科共通]

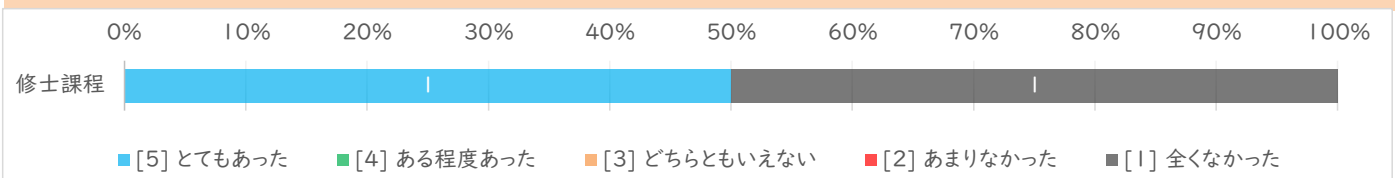


※ 国際教養学研究科生 全員対象

N=2

Q1-09. 研究テーマ選択の自由度はありましたか。

[全研究科共通]

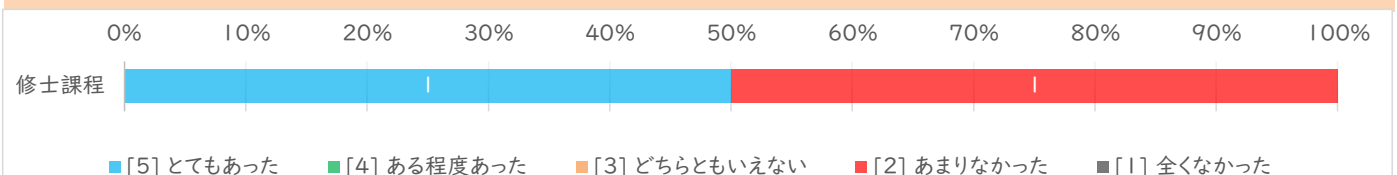


※ 国際教養学研究科生 全員対象

N=2

Q1-10. 研究遂行にあたり、研究室から研究内容に関する情報提供はありましたか。

[全研究科共通]



【1. 研究科共通の基本的な設問】

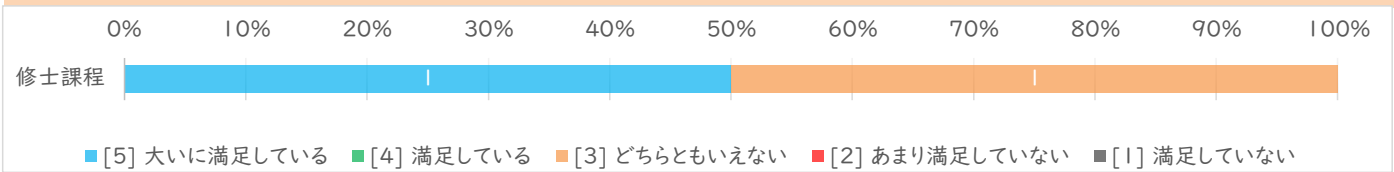
(続き)

※ 国際教養学研究所 全員対象

N=2

Q1-11. 教員の教育力および研究力に満足していますか。

[全研究科共通]

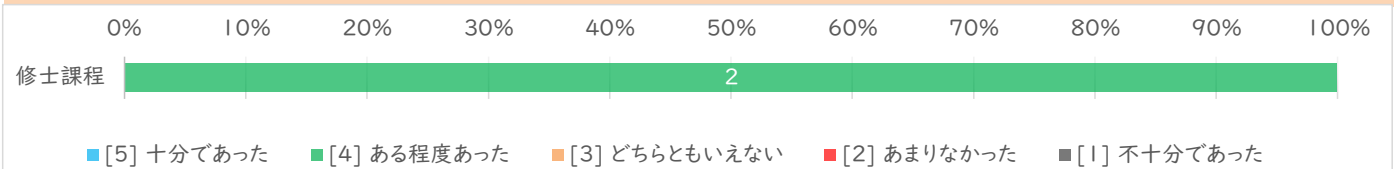


※ 国際教養学研究所 全員対象

N=2

Q1-12. 大学院生に対する奨学金、TA・RA等の経済的支援は十分でしたか。

[全研究科共通]

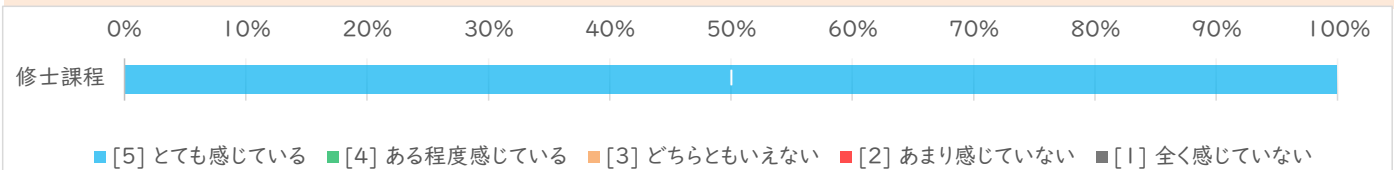


※ 英語・日本語を母国語としない学生のみ対象

N=1

Q1-13. 英語・日本語を身につける必要性を感じていますか。

[全研究科共通]



【2. 高度な専門知識・技能及び対応力に関する設問】

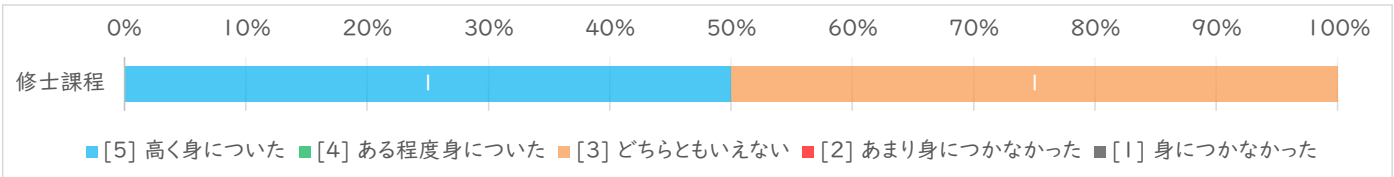
※ 国際教養学研究所 全員対象

N=2

Q2-01. 専門領域の基礎的知識を収集する能力が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



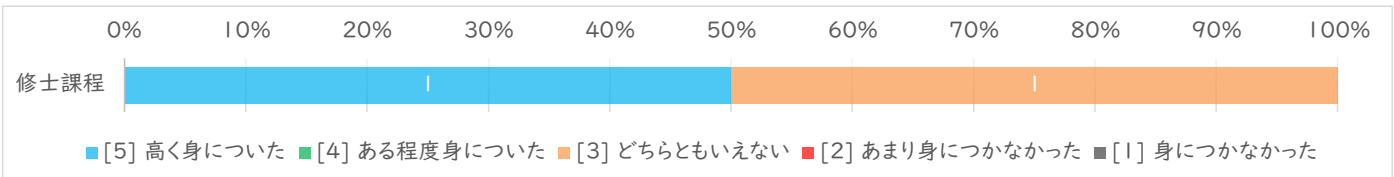
※ 国際教養学研究所 全員対象

N=2

Q2-02. 専門領域における未解決問題を導き出す能力が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



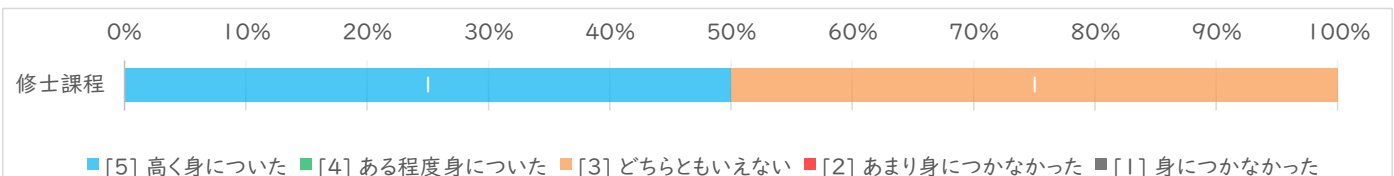
※ 国際教養学研究所 全員対象

N=2

Q2-03. 専門領域に関する知識を問題解決に応用する能力が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



【2. 高度な専門知識・技能及び対応力に関する設問】

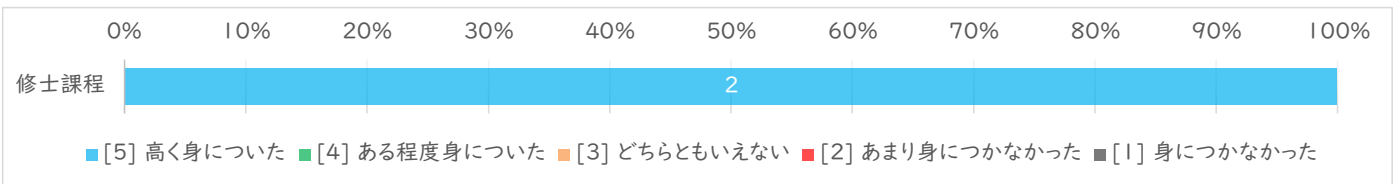
※ 国際教養学研究所生 全員対象

N=2

Q2-04. 結論および結論を導き出す過程を論理的に考え結論を導き出す能力が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



【3. 高度な教養及び国際性に関する設問】

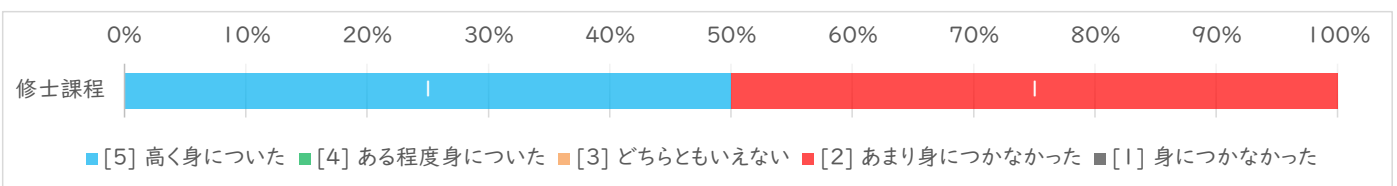
※ 国際教養学研究所生 全員対象

N=2

Q3-01. 大学院へ入学し、グローバルな視点から多面的にものごとを考える能力が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



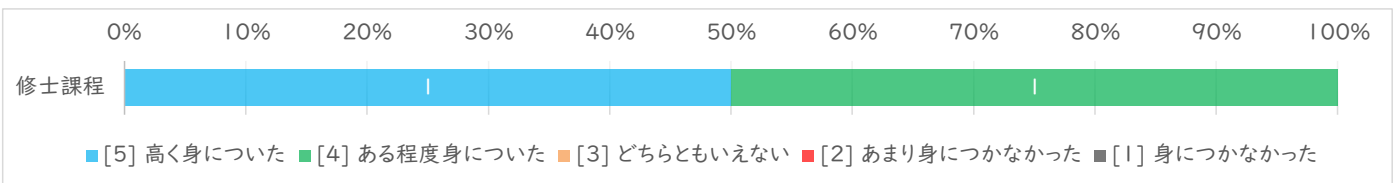
※ 国際教養学研究所生 全員対象

N=2

Q3-02. 社会の諸問題を理解し、問題解決に主体的に取り組む姿勢が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



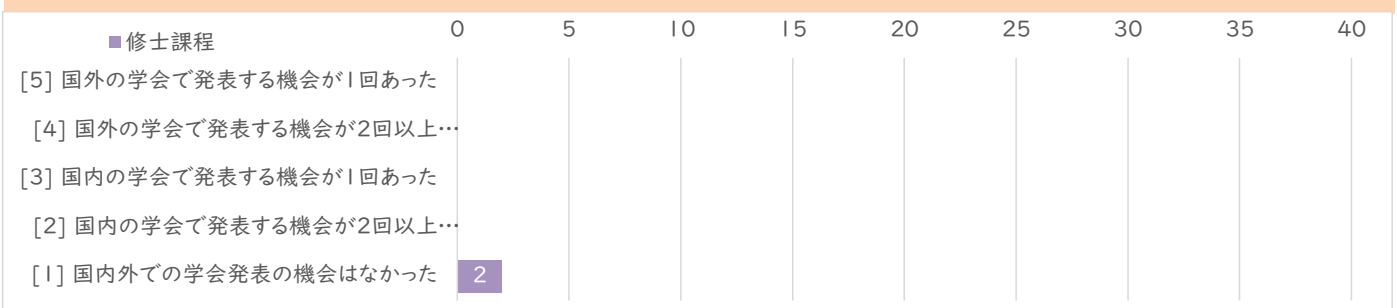
※ 国際教養学研究所生 全員対象

MAの回答数合計 → N=2

Q3-03. 専門領域に関する知識を国内外の学会で発表する機会がありましたか（在学期間中）

※複数回答可

[全研究科共通]



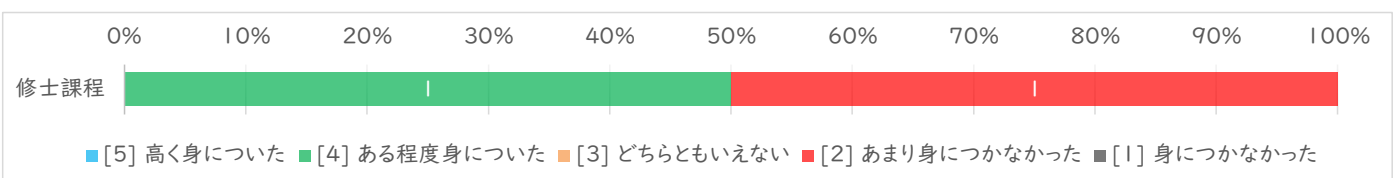
※ 国際教養学研究所生 全員対象

N=2

Q3-04. 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲が身につきましたか。

[全研究科共通]

※ 最終学年以外の学生は所属する研究科のカリキュラム等から身につくと思うかを記載ください。



【α. その他（研究科別）】

※ 国際教養学研究生 全員対象

Qα-01. 以下は、国際教養学研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）です。

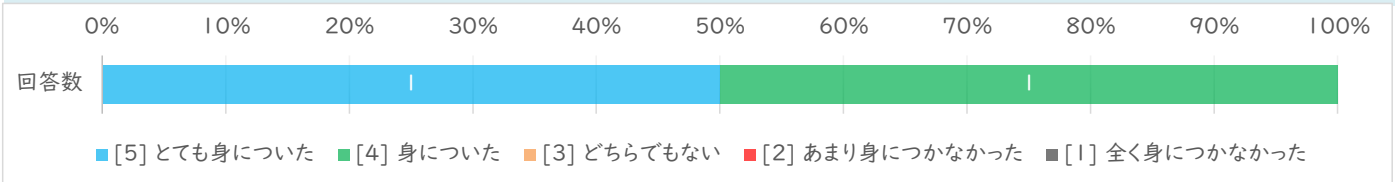
[研究科別]

それぞれ、身につけているかどうか、自己評価してください。

<国際教養学専攻(修士課程)>

N=2

- ① 論理性や批判的思考力、コミュニケーション能力、データ処理能力などの普遍的な能力を基盤とし、人間性、人間の社会及び人間と生命に関する高度な知識と理解を修得したことを示すことができる。



<国際教養学専攻(修士課程)>

N=2

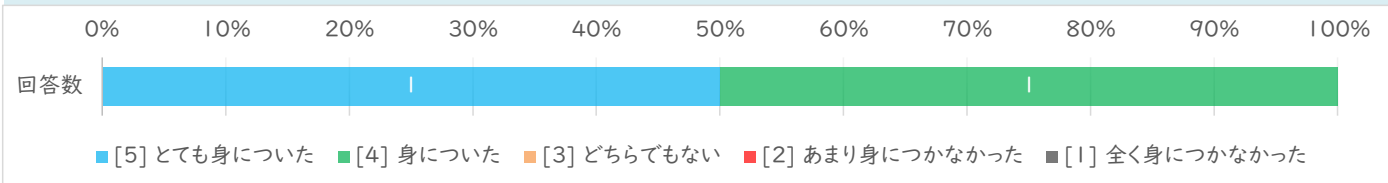
- ② 自ら課題を発見し設定する力、自ら仮説を構築し検証する力、社会的・経済的価値を判断・創出する能力を基盤として、人間性、人間の社会及び人間と生命に関する高度な知識と理解を活用することができる。



<国際教養学専攻(修士課程)>

N=2

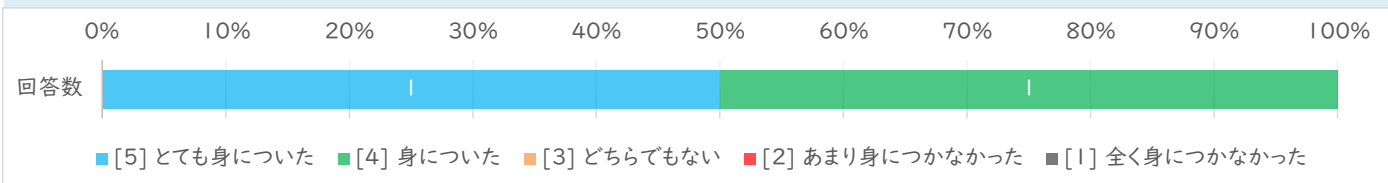
- ③ グローバルリスクが持つ高い不確実性による制約を受けつつも、知識の活用に関する社会的・倫理的責任に配慮した情報に基づいて、異分野の知識を統合し、複雑性を処理し、自己の判断を導くことができる。



<国際教養学専攻(修士課程)>

N=2

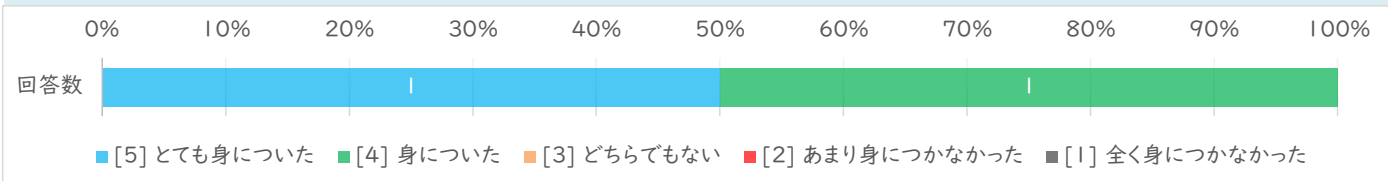
- ④ 多言語・多文化の環境下において、専門家及び非専門家に対して、結論とその根拠となる知識及び論理について、わかりやすく明確に伝えることができる。



<国際教養学専攻(修士課程)>

N=2

- ⑤ 複雑化・多様化するグローバル社会に対応するために、生涯にわたり自律的・自主的な形で学習を継続することができる。



End